

キャラクター名  
鷺坂 梨恵 (さぎさか・りえ)

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ウロボロス		ワークス	歌手	カヴァー	大学生/歌手志望
	オプション		年齢	19歳	性別	女
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	37	%
出自	57:親の理解	経験	14:長期入院	邂逅	72:貸し	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	2	0	0			2	行動値	10
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	10
精神	3	0	1			4	戦闘移動	15
社会	1	0	2			3	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		3
回避			知覚			意志	3		調達		
運転:原付	2		芸術:歌唱	4		知識:	2		情報:ウェブ	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
影の独唱 (シャドウソロ)	@80%			-		コンボ2+3、侵+9
	@100%					対象の達成値+6。1シナリオ3回
影と二重唱 (シャドウデュオ)		0		-		対象の達成値+9。1シナリオ4回
						コンボ1+2+3、侵+13

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
カジュアル	
携帯電話	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス:傍らに立つ影P		N		
義母:鷺坂 恵美子P 幸福感	N	隔意		
シナリオ:緒方 レミP 好奇心	N	嫌悪		
PC間:曲村 曲 P 親近感	N	脅威		
高原 悠 P 尽力	N	恐怖		
大川 敦 P 感服	N	不安		
早河 燕 P 信頼	N	不安		

最大財産P: 6    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
エンジェルヴォイス	1	4	メジャー	視界	単体	〈交渉〉	-	
効果: 対象のC値-1、判定ダイス+LV個								
導きの華	3	4+1	メジャー	視界	単体	〈交渉〉	-	
効果: 対象のメジャー達成値+[LV*2]								
原初の赤:要の陣形	3	3+1	メジャー	-	3体	シンドローム	-	
効果: 対象を3体に変更。1シナリオLV回								
援護の風	3	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 判定ダイス+LV個。1R1回								
原初の黒:勝利の女神	5	4+2	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 対象の達成値+[LV*3]、1ラウンド1回								
イーザーフェイカー:天使の絵の具	★	-	メジャー	視界	シ選択	自動	-	
効果: 光を屈折させることで、望む映像を大気中に投影する								
影絵芝居	★	-	メジャー	視界	シ選択	自動	-	
効果: 任意の形や大きさをもつ影を作り出し、自由自在に動かす								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

歌手を目指すUGNイリーガルの大学2年生。  
 普段はどちらかといえば物静かで自己主張をあまりしないが、  
 歌とレネゲイドについては内に確かな意志を秘める、感受性豊かな性格の持ち主。

梨恵の影は特定領域内で扱われるレネゲイドに恩恵を与えるという  
 彼女自身にはない独立した能力を行使することが可能で、きわめて特異な存在である。  
 ちなみに任務のない日は、UGN関係施設で歌手活動をする彼女の裏方として活躍している。  
 具体的には照明や背景映像やバックダンサーなど。

----以下、生えた設定----

○物心つく前にUGN系列の研究施設に拾われ、当時の研究者「緒方 レミ」に実験・開発を受ける。  
 当時はウロボロス・シンドロームと確認された罹患者数がはるかに少なかったことに加え  
 影そのものが能力を行使する、のちに「傍らに立つ影」と呼ばれる力を持っていたため、  
 直接的な戦闘能力がないにも関わらず、被検体としては別格の扱いを受けていた。  
 ●しかし、こういった『特別な能力・才能を持つ者だけが極端に重宝される』という  
 施設の暗部を一身に引き受けることに繋がり、他の被検体からは快く思われていなかったらしい。  
 嫌がらせや一方的な暴力は日常茶飯事で、優れた能力ゆえに心の内を誰にも理解されず。  
 たまに友達が出来ても”使えない”者として次の日には消えていることも一度や二度ではなかった。  
 梨恵自身当時の記憶が曖昧な部分も多いらしく、相当に精神に辛かったと思われる。